

# 教 育 研 究 業 績

2021年5月1日

氏名 時田 明子

学位：教育学士

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
社会科指導に関する実務	問題意識の持続、問題解決学習、資料活用力、発問と学習意欲の関わり	
主要担当授業科目	社会科指導法 社会	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 ・社会科の学習方法分析のための授業提供  ・探究学習の方法について発表  ・社会科における問題解決的な学習方法の指導・周知  ・研究授業を通して指導技術についての指導を実施  ・基本的な授業の進め方について模範授業を実施  ・社会科の学習問題づくりの方策について講義・演習を実施  ・社会科の問題解決的な授業の進め方について模擬授業を通して指導  ・社会科の資料提示の方法について講義・演習を実施	昭和 62 年 6 月  昭和 63 年 11 月  平成 7 年 4 月～平成 15 年 3 月  平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月  平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月  平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月  平成 26 年 4 月～平成 29 年 3 月  平成 27 年 8 月・平成 28 年 8 月	・東京都立教育研究所社会・地理歴史・公民研究室で実施した社会科の授業分析に協力し、授業提供をした。社会科学学習を効果的に進める学習展開の方法、資料提示の方法、発問等の分析をし、その結果は、東京都教員研究生の研究及び東京都立教育研究所で実施された社会科の研修等で活用された。  ・御茶の水女子大学附属小学校研究発表会において、第3学年「商店がいの人々の工夫」の実践事例をもとに探究学習の進め方について発表した。参加者に全指導の内容を資料として提供し、探究学習についての理解を図った。  ・東京都目黒区教育委員会、東京都教育委員会の指導主事として社会科学学習における問題解決的な学習の基本的な考え方、学習方法等について、校内研究会、研究発表会、講演会等で指導・周知した。  ・大学生及び初任者の研究授業を毎年 100 回程度参観し、教師としての基本的姿勢、児童の意欲を喚起する話し方・発問の仕方、板書の構成の仕方等の基本的な指導技術を指導した。授業を重ねるごとに教師としての力量が身に付いてきた。  ・毎年、大学生を対象にして、基本的な授業の進め方や授業づくりを学ばせる目的で、解説を入れながら自ら模範授業を実施し、具体的に授業づくりについて理解できるようにした。  ・教師を目指す学生を対象にして、社会科のカリキュラムづくり、問題解決的な学習の進め方、小単元の資料構成の方法等について講義・演習を実施した。特に学習問題づくりの方策をいくつかの類型に分けて講義・演習し、模擬授業等を取り入れながら理解を深めさせた。  ・大学生を対象に、社会科の問題解決的な学習を進めるために、単元指導計画や発問計画の作成、教材研究、資料の収集・選択・加工等にグループで取り組ませ模擬授業を実施した。授業に至るまでの具体的な過程を経験させることで、学生は問題解決的な学習の進め方を実感的に理解することができた。  ・東京都小学校社会科研究会夏季研修会において、若手教員を対象に、学習活動と資料提示の順番・方法とを関連させながら授業の流れを考える演習を実施した。資料提示の順番、方法によって学習内容・活動のつながりが変わることを確認し、資料提示の基本的な配慮事項について理解できるようにした。
2 作成した教科書、教材 ・新設生活科教科書（学習研究社） 「みんなの せいかつ」【1 学年】 「みんなの 生活」 【2 学年】	平成 2 年 1 月	・生活科が新設されて初めて作成された教科書である。社会科や理科などの教科との違いが分かるように、教材の選定、学習の流れ、活動の仕方等が、児童・教員に理解できるように紙面構成を工夫した。担当執筆部分は共同研究により抽出不可能。（共著者…保岡孝之、丹伊田弓子他、時田明子）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科教科書（日本文教出版） 「わたしたちのすむ土地」 小学校の社会 3・4年上下</li> </ul>	平成 23 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の趣旨を生かし、問題解決的な学習の過程が分かるように、「学習問題をつかむ」「調べる」「まとめる」段階を明確にした紙面構成にした。また、発展学習や学び方、ことばの解説等も入れ、児童が活用しやすい教科書を作成した。担当執筆部分は共同研究により抽出不可能。（共著者・伊東富士雄他、時田明子）</li> </ul>
3 教育上の能力に関する大学等の評価		・特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目黒区教育委員会指導主事として目黒区内外の講師</li> </ul>	平成 7 年 4 月～平成 13 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都目黒区の各小・中学校の学校訪問・校内研究・研究発表会、目黒区小学校・中学校教育研究会及び目黒区外の研究会等で主として社会科、生活科、総合的な学習の時間の学習について、年間 40 回程度指導助言に当たった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都教職員研修センター指導主事として東京都区市の講師</li> </ul>	平成 13 年 4 月～平成 15 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい制度の教育管理職 A・B の研修体系を企画し、人事考課に関わる評価者訓練の問題作成に携わった。また、東京都の公立小学校の校内研究、東京都区市の研究団体等に要請されて主として社会科、生活科、総合的な学習の時間の講師を年間 30 回程度務めた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都公立小学校校長（葛飾区、台東区）</li> </ul>	平成 16 年 4 月～平成 24 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究奨励校として校内研究の在り方、研究内容等について指導し、算数科、社会科の研究発表を実施した。また、東京都教育研究員の体育科、生活科、社会科の研究発表会場校として研究に協力した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都教職員研修センター教授</li> </ul>	平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学から選抜された教師志望の大学生を対象に、基本的な指導技術、生徒指導や学級経営の仕方、授業づくりの方法、小論文の書き方、コミュニケーション力の育成等、教師としての資質を向上させるための指導に取り組み、東京都の教育界に多くの教員を送った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都区市の研究団体の講師</li> </ul>	平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都区市の研究団体の講師依頼に応じ、社会科の研究授業についての講評、社会科の授業のポイント等についての講話をした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都小学校社会科研究会夏季研修会講師</li> </ul>	平成 27 年 8 月・平成 28 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員を対象にして、学習問題づくりの資料構成について演習を実施し、効果的な資料構成について指導・解説をした。</li> </ul>
5 その他	平成 24 年 2 月	平成 23 年度東京都教育委員会個人表彰（管理職）受賞

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 資格, 免許 (1) 小学校教諭 1 級普通免許状 (2) 中学校教諭 1 級普通免許状(国語) (3) 高等学校教諭 2 級普通免許状(国語)	昭和 49 年 3 月 31 日	東京都教育委員会（昭 49 小 1 普第 352 号） 東京都教育委員会（昭 49 中 1 普第 2458 号） 東京都教育委員会（昭 49 高 2 普第 2457 号）
2 特許等		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都教育研究員（社会科）</li> </ul>	昭和 60 年 4 月～昭和 61 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の研究員（6 年部会）として、「歴史事象の意味をとらえるために、問題意識を持続しながら追究し合う学習活動と評価の工夫」をテーマに設定し、社会科の歴史分野における問題解決的な学習の実践を試みた。特に、調べる力の系統表等を作成し、その活用方法を授業で示すとともに、成果を東京都内の教員対象に発表した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都教員研究生（発達心理）</li> </ul>	平成元年 4 月～平成 2 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学業不振児の学習意欲を高める指導—学習行動に関わる発達基準の分析と活用—」をテーマとして、学習意欲や学習行動を発達基準の視点からとらえる研究に取り組んだ。成果をまとめた冊子は、指導主事が各学校を指導する際に参考にされた。</li> </ul>

・東京都開発委員（社会科）	平成 4 年 4 月 ～平成 5 年 3 月	・「社会的なものの見方・考え方の育成」をテーマに設定し、研究に取り組んだ。社会的なものの見方・考え方の定義と指導計画への位置付け、教材の開発、指導の手だて等について実践を通して明らかにした。成果は授業公開・発表し、冊子にまとめて都内の各学校に配布した。
・文部省社会科資料作成委員	平成 5 年 4 月 ～平成 6 年 3 月	・社会科資料作成委員を委嘱され、「小学校社会科指導資料新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造」を作成した。関心・意欲・態度を学力の中核としてとらえ始めた頃で、社会科の新しい学力観について検討し、事例とともに冊子にまとめた。冊子は全国の各学校に配布され、研修会等でも活用された。
・東京都教育委員会社会科調査委員	平成 5 年 4 月 ～平成 6 年 3 月	・調査委員を委嘱され「『人間としての生き方』について考える児童を育てる社会科の学習指導」の調査研究に取り組んだ。本研究は、「人間としての生き方」について考える児童を育てる社会科の学習指導の在り方を生活科との接続・発展を考慮することを通して明らかにすることをねらいとした。成果は冊子にまとめ、社会科の各研修会等で活用された。
・葛飾区及び台東区小学校教育研究会社会科部長・社会科副読本作成委員長	平成 16 年 4 月～平成 24 年 3 月	・各区の社会科部員を増やし、社会科教育の充実・推進に努めた。特に新学習指導要領の趣旨を踏まえた副読本を作成するために、副読本の全面改訂に取り組み、各学校に配布した。
・東京都小学校社会科研究会役員	平成 18 年 4 月～平成 24 年 3 月	・東京都小学校社会科研究会の役員として東京都の社会科教育の充実を図った。また、新教育課程に対応した東京都版社会科指導計画作成や東京大会準備を推進した。
・東京都人権教育資料作成委員会（同和問題）委員長	平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月	・東京都教育委員会人権教育資料作成委員会（同和問題）委員長を委嘱され、社会科の立場から資料を検討し作成した。本資料は、東京都内の公立小学校・中学校・高等学校の全教員に配布され、人権教育への理解を深める役割を担った。
・台東区小学校教育研究会会長	平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	・区の研究活動の活性化に取り組んだ。特に、研究会が教員全員の学びの場として機能するように、教育委員会に働きかけて、全員出張のシステムをつくった。それに伴って、研究会の組織改正に取り組み、研究会の日は、区の教員全員が研修できるようになった。
・台東区小学校校長会会長	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	・校長の資質向上を図る研修会の実施、管理職候補等の人材育成、各学校の学校経営が円滑に推進されるような予算措置の要望等、区の校長の考えをまとめ、教育活動の向上を図った。
・全国公立小・中学校女性校長会会長	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	・各都道府県の女性校長の資質向上に努めるとともに、女性管理職が増加するように各都道府県の理事に働きかけ、女性の社会進出に貢献した。また、秋篠宮妃殿下を迎えての全国の教育情報交換会の企画運営等に取り組んだ。
4 その他		特記事項なし

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 「個を生かす授業 2 子どもの着想を生かす社会科指導」	共著	昭和 63 年 2 月	明治図書	・戦乱の世の中、幕府のしくみ、江戸時代のきまり等をイメージ化し、イラストに表現させる指導事例をまとめた。「子どもの着想を生かした『イラストのまとめ』の実際」単元名「徳川氏と天下」を執筆した。pp. 169～ 182（共著者・羽豆成二、諸岡浩他、時田明子）

2	「小学校社会科 歴史人物 42人指導法事典」	共著	平成元年1月	明治図書	・小学校社会科の歴史学習で扱う42人の人物像及び授業で活用できる人物に関わる資料についてまとめた。「小野妹子」「清少納言」を執筆した。pp. 68～73、pp. 116～121（共著者・北俊夫、伊東富士雄、廣嶋憲一郎他、 <u>時田明子</u> ）
3	「社会科授業の探究6」	共著	平成元年8月	社会科教育研究センター	・指導計画を立てる順序、見通しのもてる学習過程、児童の学習意欲を喚起する学習活動の工夫等の観点から指導計画の立て方について述べた。「指導計画をどう立てるか」を執筆した。pp. 78～82（共著者・大野連太郎、保岡孝之他、 <u>時田明子</u> ）
4	新学習指導要領の指導事例集「小学校生活科2 第二学年の指導と展開」	共著	平成2年7月	明治図書	・新設された生活科の活動主体の指導方法について実践事例を基にして記述した。特に、社会科との違いが分かるように記述した。「わたしのきろくをつくろう」を執筆した。pp. 132～137（共著者・河野重男、森隆夫他、 <u>時田明子</u> ）
5	「教育科学 社会科教育 NO. 344」	共著	平成2年10月	明治図書	・社会科の「えきではたらく人たち」と下記の生活科単元を、ねらい、指導計画の立て方、学習活動の視点から比較検討し、社会科と生活科の違いを述べた。「2年単元『でん車にのってあきをさがしにいこう』社会科と生活科の違い」を執筆した。pp. 97～103（共著者・谷川彰英、中野重人、有田和正他、 <u>時田明子</u> ）
6	「生活科授業研究」	共著	平成3年3月	明治図書	・生活科でイベントを実施する際の配慮事項及びイベントに向けて児童の学習意欲を喚起する手だてについて述べた。「イベントへの布石と誘導のポイント」を執筆した。pp. 66～67（共著者・中野重人、古屋和雄他、 <u>時田明子</u> ）
7	「子どもが動く学級活動の展開」	共著	平成3年8月	東洋館	・不安や悩みを解消し、望ましい生活習慣を育てるための指導事例を基にして、問題意識を喚起する資料の提示、アンケートの生かし方、話し合い後の取り組み方等について述べた。「題材 みんなで楽しく過ごせる学級をつくろう」を執筆した。pp. 148～153（共著者・大谷徹夫、貝ノ瀬滋他、 <u>時田明子</u> ）
8	「初等教育資料 576」	共著	平成4年3月	東洋館 （文部科学省 教育課程課・幼 児教育課編）	・児童は、どのような時に成就感を味わい、意欲をもって学習に臨むのか実践を基に座談した。「座談会 成就感を味わう学習指導を創造する」に座談内容が収録された。pp. 26～31（共著者・住岡英毅、村松鎮正、若井治子、 <u>時田明子</u> ）
9	「楽しい学習活動を取り入れた社会科教え方細案6『小学校5年 運輸・通信、国土の様子②』」	共著	平成4年10月	明治図書	・木材の量を計算する活動や水の吸い込み方を実験して観察する活動等、合科的な扱いを取り入れた教材開発の工夫のポイントについて森林資源の働きを扱う小単元を例にして述べた。「森林資源の働きを取り上げた指導例」を執筆した。pp. 122～132（共著者・北俊夫、中田正弘、露木昌仙他、 <u>時田明子</u> ）

10 「小学校生活科活動細案 6 第2学年の生活科③」	共著	平成5年3月	明治図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の自分と赤ちゃんの頃との体の大きさ比べやアルバムづくりなど、児童の意欲的な学習を促す学習活動の工夫について実践をまとめた。「わたしが生まれてから『赤ちゃんごっこやインタビューなどの具体的活動を取り入れた展開例』」を執筆した。pp. 80～85(共著者・中野重人、倉澤達雄他、<u>時田明子</u>)</li> </ul>
11 「社会科体験学習授業いきいきヒント事典」	共著	平成5年4月	明治図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一枚物語づくり」「ごっこ活動」「構造物」等の手法を取り入れながら体験学習を進める方法を述べた。小単元「聖徳太子」「聖武天皇と奈良の大仏」「藤原道長と貴族の暮らし」を執筆した。pp. 376～399(共著者・北俊夫、浅田学他、<u>時田明子</u>)</li> </ul>
12 「小学校 研究授業の進め方・見方」	共著	平成5年6月	文教書院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティームティーチングを取り入れた研究授業を進めていく方法について、学習観を一致させること、複数で行う教材研究の手順等の観点から述べた。「ティームティーチングを生かした生活科の指導『冬の町をたんけんしよう』」を執筆した。pp. 110～118(共著者・折原一雄、川上彰久、高木香子他、<u>時田明子</u>)</li> </ul>
13 「社会科 授業の探究10」	共著	平成5年8月	社会科教育研究センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の過程を評価する方法として、学習意欲、個を生かす評価を重視した評価のポイントについて述べた。「結果重視から過程重視の評価へ」を執筆した。pp. 16(共著者・水越敏行、大野連太郎他、<u>時田明子</u>)</li> </ul>
14 「観点別評価の実際1 授業に生かす評価」	共著	平成5年10月	教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価計画の立て方、評価方法、児童の反応の評価等に視点を当て、授業における評価の在り方を述べた。「社会科における評価の実際『5学年 自動車の生産のさかんな地域』の事例」を執筆した。pp. 82～91(共著者・亀井浩明、羽豆成二、有村久春他、<u>時田明子</u>)</li> </ul>
15 「社会科『関心・意欲・態度』の評価技法」	共著	平成5年12月	明治図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都開発委員として公開授業をした実践を評価の観点からまとめた。キーワード、学習振り返りカード、作品等の分析を通して評価する方法を述べた。「小単元『野辺山高原の暮らし』における評価の計画と実際」を執筆した。pp. 148～157(共著者・北俊夫、中田正弘他、<u>時田明子</u>)</li> </ul>
16 「観点別評価の手順データの集め方、判定の仕方」	共著	平成6年5月	図書文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動に沿って評価計画を例示し、観点別評価の手順、方法、様々な評価資料の解釈の仕方等について記述した。特に、知識・理解の具体的な評価方法について資料活用や思考との関わり、作品分析等の観点から述べた。「観点 社会的事象についての知識・理解『野菜畑の広がる高原の村』の評価の実際」を執筆した。pp. 173～183(共著者・石田恒好、北俊夫他、<u>時田明子</u>)</li> </ul>
17 「歴史人物42人学習活動ヒント事典」	共著	平成6年8月	明治図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学習を充実させるために、42例の学習活動の工夫を小学校社会科で扱う人物ごとに例示し、授業に多様な学習活動を取り入れられるように工夫した。「道長との</li> </ul>

18 「社会科の学習活動と評価カード」	共著	平成7年1月	小学館	<p>対話を取り入れた学習活動・絵巻物づくりを取り入れた学習活動・百人一首遊びを取り入れた学習活動・クイズ大会を取り入れた学習活動」を執筆した。pp.73～84(共著者・北俊夫、國宗功、楠元精文他、<u>時田明子</u>)</p> <p>・各歴史小単元の目標や評価の重点とポイント、学習活動の展開、評価方法、観点別評価規準カード、児童の相互評価カードなどを例示し、児童の学習活動を適切に支援する立場から評価の在り方を述べた。「地域の歴史をたずねる」「かりから米づくりへ」「古墳がつくられたころ」「聖武天皇と奈良の大仏」「藤原道長と貴族の暮らし」「源頼朝と鎌倉武士」「室町時代の文化」「信長・秀吉・家康と天下統一」「徳川家光と江戸幕府」を執筆した。pp.160～195(共著者・北俊夫、羽豆成二他、<u>時田明子</u>)</p>
19 「人間としての生き方について考える児童を育てる社会科の学習指導ー生活科との接続・発展を考慮してー」	共著	平成7年3月	東京都立教育研究所社会・地理歴史・公民研究室	<p>・指導計画を作成して、「人間としての在り方」について考える児童の思考のプロセスとそれに対応した指導・支援の在り方を具体的に明らかにした。担当執筆部分は共同研究により抽出不可能。(共著者・日基利夫、小林賢司他、<u>時田明子</u>)</p>
20 「小学校のボランティア活動への道 ふれあい体験・教育のための計画・実践例」	共著	平成11年6月	明治図書	<p>・ボランティア活動と学校教育、特に総合的な学習の時間との関わりに視点を当てて実践例を集め、各学校の教育活動の参考となるように工夫した。本を作成するに当たり、編集協力をした。担当執筆部分は抽出不可能。(共著者・菊池英、田口倫子他、<u>時田明子</u>)</p>
21 「変革のなかの学校・教師」	共著	平成14年8月	教育出版	<p>・学校を組織体として把握し、その経営を考える要としてカリキュラムの創造を重視した。新しいカリキュラムを開発する観点として、カリキュラム開発力、単元構想力、カリキュラム実施力を挙げ、それらの力を育成する方策を述べた。「カリキュラム開発能力」を執筆した。pp.79～83(共著者・亀井浩明、尾木和英他、<u>時田明子</u>)</p>
22 平成17年度版・18年度版・19年度版・平成20年度版「のびゆく葛飾」	共著	平成16年4月～平成20年3月	葛飾区教育委員会	<p>・毎年、資料を差し替えるとともに、事例の検討等を実施し、小学校中学年社会科の副読本を作成した。地域学習を推進する観点から葛飾区内の児童が調べ学習を行えるような教材、問題解決的な学習が展開できるような教材を選定し、編集した。(作成委員長 <u>時田明子</u>)</p>
23 「学校力ー時代をひらく方略と組織マネジメントー」	共著	平成18年10月	三省堂	<p>・これからの学校像について提言し、学校改善の方向を組織、授業力、教育改革等の視点から述べた。また、各教科・領域の指導上の問題点、カリキュラム上の問題点を挙げ、その改善点について述べた。「小学校社会科教育の改善」を執筆した。pp.126～131(共著者・亀井浩明、尾木和英、小松郁夫他、<u>時田明子</u>)</p>
24 「こんなとき、こう対応する学校の個人情報保護・著作権」	共著	平成18年11月	教育開発研究所	<p>・個人情報保護や著作権対応の基礎・基本及び対応実例を示し、危機管理のポイント</p>

25 「社会科教室 45」	共著	平成 19 年 6 月	日本文教出版	<p>を挙げた。また、個人情報保護の観点から、家庭調査票の使用目的の明確化、記入依頼に関する配慮事項等について述べた。「家庭調査票の作成の留意点について」を執筆した。pp. 76～77(共著者・北村文夫他、<u>時田明子</u>)</p> <p>・若手教師に向けて、よい授業をつくるために、関わり・つながりのある学級づくり、児童観・指導観・教材観の明確化、考える場の設定等の視点を挙げ、授業づくりのポイントを述べた。「若い教師へ」を執筆した。pp. 24～25(共著者・加藤幸次、成田幸夫他、<u>時田明子</u>)</p>
26 平成 21 年度版・平成 22 年度版・平成 23 年度版・平成 24 年度版 「わたしたちの台東」	共著	平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	台東区教育委員会	<p>・毎年、部分改訂を実施し、児童により分かりやすい小学校中学年社会科の副読本を作成した。特に、平成 23 年度版は新学習指導要領に対応するために全面改訂を実施し、新学習指導要領の具現化を目指して、編集した。(作成委員長 <u>時田明子</u>)</p>
27 生活科・社会科 「社会に進んでかかわり合おうとする児童の育成 一調べ・考え・表現する学習活動を通して一」	共著	平成 23 年 1 月	「研究紀要」台東区立金曾木小学校	<p>・平成 21・22 年度台東区研究協力校として生活科・社会科の研究に取り組んだ成果をまとめた。研究の視点を「問題解決的な学習過程」「社会に進んでかかわり合おうとする力」「かかわり合おうとする児童の思考と表現の一体化」に置き、新学習指導要領の趣旨を生かした実践をした。(作成責任者 校長 <u>時田明子</u>)</p>
(学術論文) 1 「学業不振児の学習意欲を高める指導ー学習行動に関わる発達基準の分析と活用ー」	単著	平成 2 年 2 月	東京都立教育研究所特別活動研究室	<p>・学習行動に関わる発達基準を設定し、児童の発達状況や発達におけるつまずきを把握することによって学習遅進児の指導の手だてを明らかにすることをねらいとした。文献研究、調査研究、授業研究に分け、研究内容をまとめた。</p>
2 「教育改革に関する提言『知識で考える』」	共著	平成 18 年 1 月	カリキュラム研究会(文部科学省から研究費受給対象の論文集)	<p>・指導内容の選択、学習の大綱化・弾力化を視点として社会科教育の改善点について述べた。「小学校社会科教育の改善」を執筆した。pp. 46～47(共著者・亀井浩明、尾木和英、清水希益他、<u>時田明子</u>)</p>
3 「講義型・活動型を併用した授業の実践ー「社会科指導法」の試みを通してー」	単著	令和 2 年 3 月	東京成徳大学子ども学部起要 10 号	<p>・教育・教員養成系の「社会科指導法」の実践を通して、講義型・活動型併用の授業方法の有効性を明らかにした。特に、講義を受け身の学習姿勢を形成してしまう授業方法として一律に忌避してしまうのではなく、アクティブラーニングを補完し、内的活動を能動化する一方法として捉え直し、講義型と活動型を併用した授業方法についての検討を試みた。pp. 41～61</p>
(その他) 1 「教師のためのスピーチ・あいさつ事例集」	共著	平成 24 年 2 月	教育開発研究所	<p>・校長、学級担任向けに学校行事、職員会議、保護者会等で、3 分間で話す例話を挙げ、ねらい、事前の準備、話し方の工夫等、スピーチのポイントを示した。学校行事の「1 年生を迎える会」「6 年生を送る会」「離任式」を執筆した。pp. 26～31(共著者・輿水かおり他、<u>時田明子</u>)</p>

2	「名言で語る校長講話」	共著	平成 24 年 3 月	教育開発研究所	・名言を引用した校長の講話の視点、ポイントを挙げた上で、65の講話例を集めた。ドロシー・ロー・ノルトの言葉と会津藩「仕の掟」について執筆した。pp.57～59、pp.165～167(共著者・小島宏他、時田明子)
3	「Principal」	共著	平成 24 年 4 月	学事出版	・教育改革についてカリキュラムづくり、小中一貫教育、授業の在り方等を話題にして、校長自らが実践的な姿勢をもって指導力を発揮し、学校経営に取り組む必要性について話し合った。「【座談会】実践的 学校経営論 これからの学校づくりと管理職への期待・上」は座談会を収録したものである。pp.30～37(共著者・亀井浩明、若月秀夫、菅谷正美、時田明子)
4	「Principal」	共著	平成 24 年 5 月	学事出版	・上記の座談会の続きで、管理職の言葉の力の重要性、教員の資質・能力の向上に向けた働きかけ等を話題にして、校長のコーディネートする力を高めることの大切さについて話し合った。「【座談会】実践的 学校経営論 これからの学校づくりと管理職への期待・下」は座談会を収録したものである。pp.30～35(共著者・亀井浩明、若月秀夫、菅谷正美、時田明子)
5	「保護者にも子どもにも伝わる学校だより巻頭言のネタ事典」	共著	平成 26 年 4 月	教育開発研究所	・学校だよりの巻頭言の様々なテーマを月ごとに示し、適時適切な巻頭言を集めた。流れ図によって構成を簡潔に示し、学校の状況によってアレンジできるようにした。「豊かな心を育む」を執筆した。p.41(共著者・石鍋浩他、時田明子)
6	「授業でも講話でも使える話のネタ事典」	共著	平成 26 年 5 月	教育開発研究所	・児童にとって魅力的な素材を話にして伝えていくために、流れ図によって話の構成を分かりやすく示し、話の意図を解説した。話は七つのカテゴリに分け、五十音順に配列して活用しやすいようにした。「花の咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ」「運動靴と赤い金魚」のエピソードを執筆した。p.45、p.159(共著者・大江近他、時田明子)
7	「すらすら書ける『学校だより巻頭言』139 文例」	共著	平成 28 年 5 月	教育開発研究所	・学校だよりの内容を七つのカテゴリーに分けて例示した。多様なテーマを集め、分かりやすく、伝わりやすい記述内容にした。「はじめの一步」「自学と家読」「解決方法は一つではないー子どもの自殺報道に接してー」「みんなで作くりあげる充実感・達成感」「体力は『生きる原動力』」「大人の責任 一本当のしつけー」を執筆した。p.17、p.45、p.73、p.101、p.129、p.179(共著者・松本武志他、時田明子)